

1 学校として目指す授業

児童の主体性と課題解決の過程を大切にし、基礎的・基本的な知識・技能の習得、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育むことを目指した授業

2 児童の現状

(1)「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語の平均正答率においては、東京都からはやや下回ったが、全国平均を上回っている結果となった。知識・技能「情報の扱いに関する事項」が下回っている。 資料の活用から自分の考えが伝わるように表現を工夫することや、比喩や反復などの表現の工夫に気付く問題での正答率が低い状況である。また、引用することや自分の考えとそれを支える理由や事例など情報と情報no関係について理解する問題でも劣っている。そのようなことから、資料を根拠にして、自分の考えを分かりやすく伝えたり、表現の工夫（比喩・反復など）がどんな効果を生んでいるかを考え、自分の文章に取り入れたりする授業を取り入れる。 ・算数においても東京都の平均からはやや下回ったが、全国平均を上回る結果となった。東京都平均と比べると、「図形」では57,7%,変化と関係では45,5%とやや下回っている。また、問題形式では、記述式の問題が51,3%と東京都の平均より下回っている。立方体の体積の計算や体積の意味の理解などの問題では、平均値を大きく下回っており、小数や分数の大小の判断やその理由を数や言葉を用いて記述できていない。図形では、図形の性質を根拠に考え、変化と関係では、表・式・グラフを関連付けて規則性を見付ける活動を中心にし、自ら考え、説明する力を育てる授業につながる。	・学習習慣では、(35)から(36-4)の、ICT機器の使用頻度、活用（文章作成、情報収集など）において東京都や全国の割合と比較しても高かった。しかし、(25)(26)の土日の学習時間や学校外の読書の時間は平均値よりも劣っている。 ・生活面の質問紙の調査では、概ね肯定的な意見が多かった反面、「できている」が平均割合より若干少なく、「どちらかといえば当てはまる」が多い傾向にあるところが分析結果で分かった。 ・そこで学習習慣では、自分で目標や内容を選び、学習を振り返る習慣を身に付けることや、学校と家庭がさらなる連携を深め、学びを励ますことで継続的な学習習慣につなげる。 ・生活面では、自分のことだけでなく、学級や学校のみんなのために、今、自分ができることを考えさせ、行動に移す姿を称賛することで主体的な生活につなげていく。

(2)清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

・それぞれの教科について「理解している」と感じている児童は多い一方で、国語科・算数科・社会科については苦手意識をもつ児童も多い。特に国語科では、「漢字の部首」「聞くこと」「読むこと」に、算数科では、「言葉や公式」、「図や表、グラフ」を扱う内容に苦手意識をもつ児童が多いことが分かった。 ・学習する理由については、「将来の仕事や生活に役立つから」や「分かることやできることが楽しいから」と考えている児童の割合が高い。一方で、「褒められたいから、ご褒美をもらえたりするから」や「誰かに負けたくないから」という理由を挙げる児童は少ない。このことから、多くの児童が、他者からの評価や競争よりも、自分自身の理解やできるようになることに学習の価値を見いだしていることがうかがえる。 ・学習の進め方に関しては、自分で理解できているか考えながら粘り強く取り組もうとする児童は多い。一方で、自分なりに工夫して学習を進めたり、友達との対話を通して考えを深めたりすることへの意識は低い。 ・学校以外での学習については、自分で計画を立てて予習や復習を行い、学習内容の定着を図ったり、疑問や興味をもったことに進んで調べたりすることへの意識が低い。 以上のことから、児童がもつ「分かるようになりたい」「できるようになりたい」という思いを大切にし、それを学習への意欲や主体的な学びにつなげる授業づくりについて、さらに研究していく必要がある。児童の学習への意欲を高めることができれば、自ら学習の方法を考え、理解を深めるために努力することにつながるのではないかと考える。また、学習の中で自分なりに工夫したり、友達との対話を通して考えを深めたりする姿を教師が意図的に価値付けることも重要である。そのよさを児童自身が実感できるようにすることで、工夫することや対話することを、より主体的に学習に取り入れようとする姿につながっていくたい。
--

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
「東京都統一体力テスト」の意識調査の結果より、「体育の授業は楽しい。」と感じている児童は全年で9割近く、「体育の授業で、上手に体を動かして運動ができるようになっていいる」と感じている児童は、全年8割近くとなっていることが分かる。しかし、教師にポイントを聞いたり、仲間と運動を見合ったりなど、工夫して練習をしたと答えた児童は3割～5割以下となっている。このことから、児童が自ら課題を設定し、その解決を協働的に取り組む学習過程を重視した授業づくりが必要だといことがわかる。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・学習意欲はあり、自分の考えをノートにまとめたり、少人数で話し合うことができる。一方で、課題解決に向けて自ら解決方法を見付けたり、粘り強く取り組もうとする児童は少ない。全体で伝え合う場面では、緊張や自信の無さから進んで発表する姿が少ない。
- ・国語科においては、既習の漢字を日常生活で使用することを苦手とする児童や自分の考えを整理して表現することや相手に順序立てて話したり、説明したりすることに苦手意識をもつ児童が多い。「書くこと」においては、作文の書き方について習得できていない児童が多いため、繰り返し指導する必要がある。
- ・個別に支援が必要な児童が多いため、視覚的な支援等が必要不可欠である。

4 学校全体の授業改善の視点

- ① 自己決定の場を保障し、児童の主体的な学びを促す
児童が学習の見通しをもち、自分の考えや方法を選択・決定しながら学習を進めることができるよう、課題設定や学習方法、表現方法等において自己決定の機会を保障する。
- ② 対話や協働を通して、考えを広げ・深める学びをつくる
児童同士が考えを伝え合い、多様な考えや友達の気付きに触れる中で、自分の考えを見直したり、新たな考えを生み出したりすることができるよう、目的を明確にした協働的な学びの場を設定する。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	言語能力を高め、順序立てて話したり書いたりする学習活動を充実させる。自分の考えを相手に伝えたり聞いた内容を広げたりできる対話的学習の指導を行っていく。				数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。				思いや願いの実現に向けて、児童が「何をするか」「どのようにするか」を考え、それを実際に行い、次の活動に向かっていくような指導をする。		表現についての知識・技能を得たり生かしたりしながら、表現を工夫させる場面を多く取り入れる。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを生み出し、曲全体を味わわせ、交流することによって音楽的な見方・考え方を広げさせる。		造形活動に親しみながら発想する場面を通して、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。発想が広がるような場面の設定や題材の取り上げ方を工夫する。体全体の感覚を生かす活動を取り入れる。				それぞれの運動のもつ機能的特性（楽しさ）に触れられるよう、遊びを充実させる。また、もっと面白くなるような意見を出し合い、自己決定の機会を取り入れ主体的に取り組める手立てをとる。協働的な学びを通して、運動の楽しさから面白さを広げ、それを味わえるような学習活動を設定していく。				教科書等の教材等から、友達と話し合い、考えをもつことによって、自分の生活を振り返る活動を取り入れる。特定の価値観を押し付けるのではなく、児童自身が「考える道徳」を行えるようにする。	
中学年	自分の考えを根拠をもってまとめ、伝える内容に応じて文章の中心を考える学習活動を充実させる。配当されている漢字を文章の中で使うよう、ノート指導を行う。		社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に課題解決することができるように、ペアやグループで調べたことを共有したり、考えたことを話し合ったりする機会を意図的に設定し指導する。		数とその表現や数量の関係に着目し、目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。		理科の見方・考え方を働かせ、差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができるように単元の導入を工夫する。問題について、既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を立てることによって音楽的な見方考え方を広げさせる。				表現や音楽づくりについての知識・技能を得たり、生かしたりしながら、表現を工夫したり、音楽づくりの活動を行わせたりする。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを生み出し曲延滞を味わわせるとともに、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付かせ考えを交流することによって音楽的な見方考え方を広げさせる。		材料や道具などから豊かな発想をし、手や体を十分に働かせ表し方を工夫できる場を設定して、造形的な能力を伸ばせるようにする。前学年までに経験した技法や道具を繰り返し扱う場面を設定する。			それぞれの運動のもつ機能的特性（楽しさ）に触れられる単元を計画する。楽しさに触れ、面白さに結びつけられるように授業の中に児童の自己決定の場面を意図的に設定することで、より主体的に運動に取り組む姿を狙っていく。		外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付け、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。また、相手との交流を通して主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを理解させ、日本と外国の言語や文化について理解させていく。		教科書の教材等から、友達と話し合い、多様な価値観を知り、自分の考えを深め、自分の生活を振り返る活動を取り入れる。道徳的価値について児童が考えた議論する場を設けられるようにする。多様な価値観を受け入れ、身なりや協力し助け合う態度を身に付けさせる。一般的な規範や社会のきまりの意義やよさについて理解させ、それらを守るように指導していく。		
高学年	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養うために、言葉や読書との出会いを大切にしたり、学習したことを生活で活用したりできるように指導する。		社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養えるようにするとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切にしている国を愛する心情、我が国の特徴を誇り国語としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについて自覚を養えるよう指導する。		数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力を養う指導を行う。		実験や観察の結果を基に仮説を立て、それを検証する過程を重視する。また、問題解決に向けた考察を書く時間を確保することや、結果を確かめるための再検証をする機会を増やし、深い学びを促す。				表現や音楽づくりについての知識・技能を得たり、生かしたりしながら、表現を工夫したり、音楽づくりの活動を行わせたりする。鑑賞では、曲や演奏の楽しさを生み出し曲全体を味わわせるとともに、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付かせ考えを交流することによって音楽的な見方考え方を広げさせる。		材料や道具などの特徴をとらえ想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに様々な表し方を工夫して、造形的な能力を高めるようにする。既習学習以外にも教科横断的な知識も総合して活用できる題材を設定する。		よりよい生活を営むために工夫することができるようにする。日常生活における課題を見付け、解決する力を養うために、振り返りを充実させ、実生活に生かせるように促す。		自己の能力に適した毎時間の目標設定を行う。また、課題の解決の仕方や技の組み合わせ方、記録への挑戦の仕方を工夫できるようにすることや、自己や仲間と考えたことを他者に伝えられるようICTの活用も充実させる。		外国語を用いてコミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定し、その場面や状況等に応じて、自分の考えや気持ちなどを積極的に表現できるように活動をもたせる。		教科書の教材等から、友達と考えを交流し、多様な価値観や考え方に向き合い、自分の考えを深化し、自己の生き方を生かすための振り返りの活動を取り入れる。特定の価値観を押し付けて、自分の考えや気持ちを積極的に表現できるように活動をもたせる。児童が道徳的な課題を他者と議論し自己の考えを深めていくことができる授業を行っていく。	